

協力井戸の水質検査基準項目

検査項目は、10項目

No.	項目	内容
1	一般細菌	水に含まれる細菌数を示す指標です。 一般細菌は、地下水や河川水、土壌、さらには食品や空気中など広く分布していますが、著しく増加した場合何らかの汚染や病原性生物の混入などが考えられます。病原菌は塩素消毒に対する抵抗力が弱いことから消毒効果確認の指標にもなっています。
2	大腸菌	大腸菌はヒトや家畜、または野生動物や鳥類などの糞便中に多数存在し糞便汚染の指標となっています。検出された場合、下水や下水処理水などによる汚染が考えられます。病原性細菌による汚染も考えられ、直ちに対応が必要な危険な汚染である可能性を示します。
3	亜硝酸態窒素	窒素肥料、腐敗した動植物、し尿、下水、汚水等による汚染の指数となっています。基準値を超えた水を摂取すると、メトヘモグロビン血症になり、チアノーゼ症状を起こすおそれがあります。
4	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	土壌や水に広く存在していますが、一般に麻糸では地表の影響を受けやすく高い傾向にあります。窒素肥料、腐敗した動植物、家庭排水、工場排水や下水等に由来しますが、特に肥料由来の場合農薬汚染の可能性も含んでいます。基準を超える水を摂取すると乳児の健康に悪影響を与えます。
5	塩化物イオン	自然水は常に多少の塩素イオンを含んでいますが、塩素イオンが増加した場合、下水や家庭排水、し尿などによる汚染が考えられます。また、塩素イオンの多い水は鉄管を腐食する傾向があります。
6	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	水中に存在する有機物に含まれる炭素の総量を全有機炭素(TOC)といい有機性汚濁物質の指標となります。土壌由来のものもありますが、下水やし尿、工場排水などが混入することによってもこの値は増加します。
7	pH 値	水の酸性やアルカリ性の度合いを示します。一般に自然水では比較的安定していますので、急激な変化がある場合には何らかの汚染が考えられます。また、地下水では微酸性を示すことが多く、配管や、ポンプ等の腐食を早めるといわれています。
8	臭気	藻類の発生によるカビ臭や土臭さ、工場排水など汚水の混入による薬品臭や油臭、腐敗臭や味の異常など、平常時と異なる臭味がある場合には衛生上問題がある可能性があります。

9	色度	色度は水の着色の程度を示し、濁度は水の濁りの程度を示します。フミン質などの有機物に由来する他、配管のサビ、生活排水、し尿、土砂、化学物質等に由来する場合があります。代表的な水の着色原因には次のようなものがあります。
10	濁度	白い水：気泡、亜鉛の溶出 青い水：銅の溶出 赤い水：鉄サビ